

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373600489		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム うえつき		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2422-8		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=3373600489-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=3373600489-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍でも笑いが絶えず、笑顔で過ごせる生活を心がけています。工作、塗り絵で手先を使って頂く、リハビリ体操で体全体を動かして頂いています。ご利用者、ご家族が安心して暮らせるように医療従事者と連携して日々の体調管理行っています。  
明るく話しやすい職員が多く、日々職員同士で利用者の対応、日々の業務について相談し合っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

明るい玄関には、生け花が飾られ四季を感じることが出来る。居間からは、体操の音楽や歌声などが聞こえてくる。コロナ禍により、面会や地域住民との直接の交流をする機会が制限されているが、季節の野菜や果物を届けてくれる。また、利用者の作品を地域の文化祭に出店するなど、交流が途絶えないように努めている。連絡ノートやSNSの活用により、日ごろから職員間の連携が密に取りやすくなっている。職員間の連携は、利用者の意向や変化に応じたケアに活かすことが出来ていると感じられる。利用者・職員の活気のある声の聞こえる事業所であった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に入って右手、ホール内と常に見える所に掲示し、職員一人一人が理念に沿った行動が出来るようにしています。	理念に「第二の我が家として自分らしい生活ができるよう支援します」を掲げ、心身ともに安らかに寛げる場所の提供に努めている。職員は理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の農家よりお米を購入している。ここ2年は地域の保育園運動会、お祭りに参加できない状況にあるが、小学校より児童が書いたカード・収穫したさつま芋を頂いたり、文化祭に作品のみ出品している。	コロナ禍により地域住民との交流に制限はあるが、近隣より米を購入したり、野菜や果物をもらったりする。また、小学校から手作りのカードが届くなど、地域との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭にお花紙で作った壁飾りなどを出品し、認知症の人であってもそれぞれが力を持っている事を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来なら2ヶ月に1度、行政、地域の老人会、民生委員、入所者の家族を交えて、ホームの日常生活や、活動内容を報告し意見を頂居っている。ここ2年は中止にしており個々に意見を聞いたりしている。	コロナ禍により、運営推進会議の開催は困難だが、書面で利用者や事業所の様子を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの実情を伝え、相談事項に実直に対応して頂いています。又、町主催で開催されている地域密着型管理者会議に出席しています。	困難事例について相談し、対応や受診のアドバイスをもらっている。また、町主催で開催している地域密着型管理者会議に参加し、他事業所との情報共有を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、施設内研修などで身体拘束について勉強しており、正しく理解している。玄関の施錠はせずセンサーを設置している。	定期的に研修を行い、身体拘束をしないケアの実践につなげている。また、高齢者虐待のチェックリストを活用し、日頃の対応を振り返る機会を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にはなかなか参加するのが難しい状況ではあるが、高齢者の権利、尊厳、虐待の資料を基に施設内で研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にはなかなか参加するのが難しい状況ではあるが、施設内研修を定期的に行い、ホーム利用者様の権利を尊重する事を念頭にサービスの提供を進める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が必ず行い、理念に沿ったケア方針を明記した文章のもと十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート記入をお願いしたり、写真・手紙や電話などで近況をお伝えし、ホームへの要望や意見を頂いています。	面会時に、アンケートの記入をお願いしている。また、電話で近況を伝えた際に要望や意見を聞く機会を設けている。請求書と共に利用者の写真を一緒に送り、様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング(月1回)や申し送り、またその都度要望、意見を聞いている。代表者と管理者は常に連絡を取り、職員からの意見を伝えています。	職員から、調理方法のアイデアや事業所の看板の設置など、自発的に意見が出ている。代表者と管理者が連絡を取り合い、職員からの意見の反映に努めている。	介護方法について研修したいとの意見がある。代表者の専門的な知識を活かした研修が行われ、ケアに活かされることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力・実績・資格等給料に反映している。代表者は管理者より随時職員の勤務状況の報告を受け、家庭と仕事の両立が出来るよう要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修を行い、知識の習得に努めています。又、オンライン研修、外部研修案内も掲示し職員が選択できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催で管理者会議が開催されています。情報交換の場としても活用できています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が何がしたいのか、何を必要としているのかを観察、傾聴に努め、安心を確保し、馴染みの関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご利用者様の訴えに共感し、訴えをゆっくりとお聞きしています。不安な気持ちがあっても和らぐ事が出来るように、話し方等も工夫できるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接において、ご家族、本人様からプライバシーを尊重した聞き取りを行い、利用者様に最善のサービスが利用できるよう、サービスの種類等をお伝えしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が出来る事をしてもらいながら、持っている能力を発揮して頂き、洗濯 たたみ、テーブル拭き、簡単な食事作りに協力して頂いております。職員もその中に入って一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の日頃の様子を細目に報告し、どのように生活されているか理解して頂く。窓越しの面会、電話で話して頂くなどし、関係を断ち切る事のないよう支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内は同郷の馴染みが深く、利用者同士がよく関わっています。今は面会ができていない状況ですが、家族、知人、友人の面会がいつでも、尋ねて来やすい雰囲気作りに努めています。	家族や友人・知人との手紙や電話でのやり取りを支援している。同郷の利用者もおおり、馴染みの関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が「場」を盛り上げたり、掛け合いながら関わりを持っています。利用者同士の相性も把握し、職員が情報を共有するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた利用者様が混乱されることが無いよう必要な情報提供を行っています。契約終了後にも手紙や年賀状のやり取りをしている家族も居られます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から聞かれる思いを聞き逃さない様にして、その人らしい、生活が送れるように支援しています。又、思いを言葉で伝える事が困難な利用者の表情等から汲み取り、関わり方の工夫を行っています。	表情や言葉から思いを汲み取れるよう、利用者寄り添うことや表情をしっかりと確認することを心がけている。また、出来るだけ利用者に声掛けをするように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や日常会話の中で生活歴の情報を得ることにより職員間で情報の共有を確実にし、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズム、日常の過ごし方、その時の気持ちのありように配慮し、本人様の思いに沿った暮らしの提供に努めている。本人様の訴えや毎日の健康チェック等で状態の変化に気づき、申し送りにより対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との電話で要望等お聞きする。状態の変化等、ミーティング、必要に応じてその都度話し合い、援助内容を検討実施している。	状態に変化があれば、その都度家族に連絡し伝えているため、状態に応じた要望が出やすい。また、モニタリングシートを活用し、チームとして「その人らしい過ごした方」を共有し、計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や全体の業務日誌、申し送りシート等で職員が日々の様子や感じたことを記録として記入し、職員間で情報共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にお住い、ご高齢など、ご家族の状況によって、病院受診、病院入院時等必要な支援は柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここ2年程は参加できていませんが、保育園の運動会や地域の文化祭を見に行ったり、小学校の慰問、秋祭り参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時よりの主治医の変更をすることなく定期的に往診して頂き、夜間や急変時の対応やアドバイスも頂いています。必要に応じて受診の付き添いも行っており、病状もご家族へ報告しています。	入居後も、以前からのかかりつけ医の往診を2週間に1度受けている。また必要に応じ、受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっていることで体調の変化に早急に対応でき、早期発見につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の様子や入院に至るまでの経緯を情報提供し、安心して治療に専念して頂いています。ホームでは対応不可能な状況を率直にご家族にも伝え理解して頂いております。難しい状況時は主治医に相談し意見も頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に係わる指針、看取りについての指針を掲げており入所時に家族には説明、同意を頂いている。重度化や終末期の対応はホーム単独では困難な為、地域でのネットワークが肝心であり体制を整えている。	重度化した際の対応について、入居時に説明と同意を得ているが、入居の時点では分からないという場合もあるので、時間をおいて再度確認を行っている。看取りは本人・家族の意向に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアル化しており、マニュアルにのっとり研修を実施しています。急変、事故発生時、対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、スタッフの動きをマニュアル化、緊急連絡網の作成も行っている。また、地元消防署、近隣住人へ救援要請の体制づくり、年2回の消防避難訓練を実施している。	隣接の事業所と一緒に避難訓練を行っている。また、今年度はオンラインでの訓練を行った。災害時には、地域住民の救援要請も見える協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利、身体拘束についてミーティングで話し合ったり、研修の機会を設けています。1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を職員間で注意しあいながら心がけている。	居室の入口にカーテンを設置し、プライバシーへの配慮を行っている。接遇の研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話がしやすい雰囲気を作り、本人様が思いや希望を表せるように働きかけ、自己表現、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は1人ひとりのペースに合わせ、思いを大切に声かけ等により働きかけて、どのように過ごしたいか自己決定ができるように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、更衣時に自分で出来る方には自由に選んでもらい、他の方は職員と一緒に洋服を選び着用しておしゃれが楽しめるよう支援している。本人様の希望をご家族に伝え洋服を買って来られることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃のコミュニケーションの中から何が食べたいか把握しそれをメニューとして出すよう努力しています。簡単な料理は一緒に作って頂くこともあります。	食事は、利用者に食べたい物を確認しながら献立を立てている。煮込みラーメンを、大きな鍋に作り取り分けながら食べたり、餃子を作ったり等、食事を楽しむ工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人別に記入し、食事量低下の時は高カロリー食品で対応している。水分は起床時、毎食前後、午前午後摂取して頂いている。 1日2400cc前後		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施しています。できることはして頂きながら、自歯がある方は歯間ブラシを使うなど磨き残しがないようにケア出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況に合った排泄介助を行っています。無理なく、トイレが使用できる方にはトイレで気持ちよく排泄して頂いています。退院時、おしめ対応と言われた方が立位可能、トイレで排泄が出来、リハビリパンツ対応になるまで回復した事あり。	直ぐにおしめを使用するのではなく、なるべくトイレに行くように支援している。また、入院後におしめの使用になった場合は、排泄のタイミングをつかむことで、トイレに行ける様になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すために毎朝コップ1杯の水を飲んで頂いている。自家製のヨーグルトドリンクも毎日飲んで頂き、腸に働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴予定はあるが、本人の希望、体調等を見て調整している。楽しみの一つとしてゆっくりと入浴して頂くよう支援している。	当日の体調や様子を見ながら、入浴を決めている。ゆっくりと入浴してもらうように心がけ、ゆず湯を行う等、楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠に支障のある人には眠くなるまでの時間を職員と共に過ごす。日中でも居室で休まれたり、その方の希望でソファで休まれる場合もあります。安眠に向けて生活リズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服薬状態を把握し、きちんと服薬できるよう支援しています。薬処方時には医師の説明、処方箋を職員間で共有し、目的や副作用等の理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じてホーム内で自分の役割としての仕事を持って頂いている。雑誌、日課の新聞を読まれ楽しまれています。春や秋には庭にテーブルを出してランチを楽しみました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、ホームの玄関前で日光浴、ホームの敷地内や近所を散歩して頂きます。	玄関前に設置されたベンチでの日光浴や、庭の散歩を日常的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の要望もあり、預り金もないので実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望により、その都度ご家族に連絡をとる支援を行っている。ご家族からの手紙が届いたら直ぐにお渡しし読んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には常に生け花が生けてあります。ホール内には季節ごとの装飾をしたり、利用者様の塗り絵も展示し、自由に見て楽しんでいる。ホールの大きい掃き出し窓からは四季の風景を楽しむこともできる。	感染症対策として、加湿器の設置やこまめな換気・拭き掃除などを行っている。居間に集う利用者の様子からは、居心地の良い空間となっていると思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではそれぞれの気の合った方々と隣に座り談話したり、テレビを観たりして過ごしている。居室で過ごされる方は		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのクローゼット、ベッドがあり、人によっては自宅で布団の生活で、ベッドが慣れず、不眠に繋がった為、布団で休んで頂けるように工夫しています。	写真や自作の作品などを飾っていたり、使い慣れた寝具を使用したりと居心地よく過ごせる居室の配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室全体の様子がホールから、分かりやすい作りになっています。ホールには歩行や移動の際に妨げになるような物をなるべく置かないようにして、安全に自立した生活が送れるように支援している。		